

みんなの医療



事業所

長野中央病院
南長池診療所
稲里生協クリニック
老人保健施設ふるさと
徳間デイサービスたんぼぼ
三本柳デイサービスミント
戸倉デイサービスゆいっこ
グループホーム栗田ゆうゆう

グループホーム南長池れんげそう
長野中央介護センターつるが
在宅総合ステーションながの
(ケアマネジャー・訪問介護)
訪問看護ステーションながの
つるがりハビリセンター
ショートステイつるが
高齢者住宅つるがの風

核なき世界をめざして

被爆者と高校生が描く原爆の絵画展

長野医療生協では毎年、平和行進、原水爆禁止世界大会への参加、街頭や病院待合室での「ヒバクシャ国際署名」などさまざまな平和活動に取り組んでいます。被爆の実相を伝えるための外来待合室での「原爆被爆写真展」を10年以上続けてきましたが、今年は広島の高中生が描いた原爆の絵の展示を企画しました。

8月2日から8日までの1週間、長野中央病院研修ホールで開催された展示会には組合員、職員、患者さんなど約160人が訪れました。



生徒たちは証言者から被爆体験を聴き、あの日、きのこ雲の下で何が起こっていたのか、想像を絶する光景をどう表現するか、悩みながらも自ら学習し、証言者と何度も打ち合わせをし、現場を訪れ、約1年かけてこの「原爆の絵」を描き上げるそうです。

「高校生が描いたとは思えない迫力だね」「こんな悲惨な地獄絵だつたんだね」
「証言を頼りにここまで表現できるのは・・・」見学したみなさんの感想です。
広島市立基町高校創造表現コースの生徒が、被爆者と共同で2007年から毎年取り組んでいる『次世代と描く原爆の絵』プロジェクト（広島平和記念資料館主催）で作り上げた原爆の絵。

被爆者ととともに「あの日」を描く

8月6日前後に放映された、テレビのドキュメンタリー番組では、作品を仕上げる過程での高校生たちの努力や苦悩が紹介されてきました。見たこともない光景を被爆者の方の証言から自分なりにイメージして描くことのむずかしさがよくわかります。

戦争体験者の高齢化がすすみ、直接体験を聴くことはどんどん難しくなる中ですが、若い世代がそれを継承しようとする活動も増えてきています。

今回の展示会も多くのみなさんに被爆の実相はもとより、被爆者の思いに寄り添う高校生たちの継承活動を知ってもらいたいと企画しました。

次回は9月2日(月)〜9月4日(水)に長野中央病院研修ホールで開催します。
(社保委員会事務局 田村昌美)

被爆体験を継承する63作品を展示



お昼休みには職員も見学



作品に見入る見学者

待合室

みなさんは宇宙で生命が誕生する確率をご存知ですか？数値で表すと、なんと10の4万乗(10を4万回かけた数)分の1だそうです。途方もなくてよくわかりませんね▼たとえるなら、「バラバラに分解した時計の部品を25mプールに入れ、プールの水をかき回して、その水の流れだけでまた時計が完全に組み上がる確率と同じ」というものです。つまり「まずありえない確率」ということなんですね。地球が奇跡の星と表現されるのは、そこに生まれた命が、こんなにも奇跡的で尊いことにも由縁があるのでしよう▼私達が生きるこの社会も、そんな命を守るためのものではなくてはならないはず。社会保障の改善や戦争に走る社会にどうしてできるでしょうか。この世界に生きる人の生活と命を守るために、共同の力を発揮させていきましょう。私たちにできることは、この晩夏の空に輝く星のように数多あります。